

会員ニュース



南雲一廣先生遺訓 ヴォックスの芸術吟詠で、人の心に息吹を与え、荒廃した人心を詩吟の魂で生き返らせたい。

榛名富士と榛名湖

群馬地区本部長 国分国壮

群馬県高崎市の北西部にある榛名山（標高 1449m）は、妙義山・赤城山と共に、上毛三山の一つ。那須火山帯に属する二重式火山で、榛名湖はその火口原湖である。

榛名湖の東岸に円錐状の美しい姿を見せるのが榛名富士。湖岸から山頂にロープウェイが通じている。展望台からは関東平野や上信越の山並みを望める。

新たな出発

会長 岩淵公胤



紅葉が山にも野原にも彩る晩秋、日頃はヴォックス全国会員各位の、心温まるご支援ご協力を賜っております事に改めて感謝と御礼を申し上げます。

第三十回全国吟詠コンクール決勝大会（東京）・三十周年記念祝賀会（中部）と大きな大きな節目の行事も終り、ヴォックス創立者の故南雲一廣先生もきつと泉下で喜んでおられることと思います。これも偏に各地区本部長はじめ、「塩梅の臣」である事務総局長そして会員の皆様お一人お一人のヴォックスを愛する、亦吟剣詩舞を継続し絶やすことの無いようにという心意気のお蔭です。因みに三十年は一〇九五〇日、二六二、八〇〇時間（端数省略）だそうです。早いような短いような、改めて感無量の思いが致します。

ヴォックス音楽吟詠会は、他の団体に無い「お互いに意見を言い合える」そして「お互いの良い所を認め合い感謝と思いやりのある」心豊かな人達の集まりである素晴らしい団体です。

新たな出発として第三十一回全国吟詠コンクール決勝大会も近畿地区本部長・岡田岳龍先生はじめ皆様の献身的なご尽力により無事盛会裏に終了出来ましたことに重ねて感謝を申し上げます。

今後、総本部の春秋に富む亦「粋」（気がきいて、思いやりがあり）な執行部の皆様には大変お世話様になります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

この吟剣詩舞の明日を信じ、乱れた世の中を少しでも浄化出来ればと願っております。

今後共更なるご支援ご協力を切にお願い申し上げますと共に全国会員皆様のご健勝と併せて多幸をご祈念申し上げます。挨拶とさせて戴きます。

おめでとう

文部科学大臣賞

井口隆子さん 中部地区



第31回全国吟詠コンクール決勝大会で、第三部優勝者・井口さんに今年の文部科学大臣賞が授与されました。北辰神明流日本修道館・修園会（会長・井川園楓）本部・〒五〇四―〇〇四六・岐阜県各務原市・蘇原柿沢町三―二―五七

喜びの言葉

よき師に恵まれ、よき生徒ならんと努力してまいりましたが、図らずも決勝大会に於いて、三部・優勝・文部科学大臣賞と併せて受賞させていただき心より感謝しております。日々精進することとは本より、初心を忘れず吟道を志す人々の模範になれるよう努力してまいります。





ごあいさつ

事務総長 草薙典龍

ヴォックス故南雲一廣先生の、真髓『人の心に息吹を与える』『束縛のない流派を超越した吟詠道』即ち、【人道即吟道の南雲イズム】が受け継がれ、この度会員の声を反映できるように、会員一人一人が分かち合える全員総会に刷新して、三月五日に三十周年の祝賀会を兼ねて「ヴォックス音楽吟詠会第一回総会」を名古屋クラウンホテルで盛会のうちに開催することが出来ました。ここに有難く厚く御礼申し上げます。また遠路ご出席頂きました会員の方々に、お許しは、当日何かと不行き届きがあったかと存じますが、曲げてお許しただきたく伏してお詫び申し上げます。

日本人は、「助け合い、譲り合い、分かち合い」の精神で今日の社会を築いて参りましたが、残念ながら現代の社会現象は荒廃の中にあって、好転の兆しが見えません。しかし、このような時こそ、大和魂を謳歌する吟剣詩舞道の価値が問われている時ではないでしょうか。

私は今、日本の歴史や伝統が正しく後世に受け継がれるために皆様と手を携えて、吟詠の真髄で本来の日本の姿を呼び起こし、少しでも社会に貢献できるヴォックス音楽吟詠会でありたいと願う一人です。総本部の業務に就いては、目下、中部地区本部の会員を中心に鋭意努力していただいておりますが、今後更にヴォックス会員の明日の糧となる会員相互の価値ある会として頑張る所存ですので、全国会員皆様のかかわらぬ御協力、御支援を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつと致します。

平成 22 年度 ヴォックス音楽吟詠会

全国吟詠コンクール決勝大会

平成 22 年 10 月 31 日



全国吟詠コンクール 二部

優勝 津野亜由美 (西中国)
準優勝 上田 佳苗 (群馬)
入賞 木津 恵美 (近畿)



全国吟詠コンクール 一部

優勝 黒田真帆 (播磨)
第一部は高いレベルで接戦の結果、優勝者に賞状とトロフィー、出場の方々に参加賞が授与されました。
出場者 順不同
富澤志織 (東京)
矢野比雅 (中部)
奥泉結衣 (群馬)

優勝感想文



まさか私が優勝？と驚きの中にたくさんの方々「おめでとう」と言ってもらって、やっと実感が湧いてきました。この大会から学んだことは、継続は力なりです。いつも私を支え励ましてくださった摂楠流の皆様と師である祖母「松本摂凰」に心から感謝しています。ありがとうございました。

吟詠家のお手本です お見事！

「高齡の四方を表彰



右から
西山 ミエ (神奈川)
伊藤 栄二 (神奈川)
秋山 好久 (神奈川)
大登 義洋 (東京)
の各氏。

おめでとう。すごいよ。やさしくて、恥ずかしがり屋さんで、舞台では下を向いて吟じていたあなたが、全国大会でも落ち着いて発表できるまでに成長しましたね。この経験は、これからの人生の色々な場で更に大きく役立ち花開くことになるでしょう。大会関係諸先生、温かい周りの皆様に感謝の気持ちで一杯です。ヴォックス音楽吟詠会の益々のご発展を祈念致しております。

一部 優勝 黒田真帆さんの
担当師範 松本摂凰

吟詠コンクール 三部



優勝 井口隆子 (中部)
準優勝 長谷川悟 (播磨)
三位 井上敬助 (西中国)
四位 塚本鉄郎 (播磨)
五位 石原友子 (群馬)

吟詠コンクール 四部



優勝 山本康子 (中部)
準優勝 田邊邦善 (中部)
三位 今村恵巳子 (近畿)
四位 田中政記 (西中国)
五位 山崎富士男 (信越)



小野里孝子
越谷 桂子
越谷 綾乃
後藤 陽子
小林 亜由美

優勝 群馬 地区代表 小野里孝子他
準優勝 西中国地区代表 久丸修三他
三位 群馬 地区代表 鈴木禎栄他

全国吟詠コンクール 六部

合吟



優勝 石田千代三郎 (信越)
準優勝 原田 拡 (近畿)
三位 大登 義洋 (東京)
四位 村瀬 勝二 (信越)
五位 林 和人 (信越)

全国吟詠コンクール 五部

平成 22 年・コンクール決勝大会直前の審査員会議



合吟 優勝群馬チームは、

全員が看護職

小野里孝子・小林 亜由美の二名が看護師、越谷桂子・後藤陽子の二名が介護士、越谷綾乃が看護学生で、親子三代(小野里孝子が実母、越谷桂子が長女、越谷綾乃が孫)もメンバーが特色でした。
群馬地区本部長
国壮流吟剣詩舞道総本部
家元 国分 国壮

来年度吟詠コンクール課題吟詠及び

平成 22 年度決勝大会優勝者吟詠集

CD 発売 ￥2,500

歌謡吟詠 2 題収録 [南雲一廣遺稿集より]

♪ 欄丸哀歌 故 小林心風

♪ 天狗党哀歌 矢口吟洗

お買い求め・各地区本部事務局へ

下坐のつぶやき

吟歴も永くなり、高齢となるに従い、迂闊にも初心を忘れることが有りませんか？小生何度も失敗しては初心に返り、又ほどこく情性に流されて参りました。詩は感嘆詞の集合体ともいうべき作者の宇宙観の結晶です。

誰でも、新鮮な取組みを忘れて(詩に対して)、自分の声のキーの高低に囚われたり、丁寧な振りや節調、間合いなどの研究をしないでその時の調子で吟ずる場合がありますから、慣れ親しんだ吟題にも注意したいものです。それに、芸事すべて、もっとという研究向上心が求められますね。

南雲

ヴォックス創立 30 周年記念祝賀会



祝賀会風景・時のたつのを忘れる程の、和やか且つ親しみの雰囲気一杯。

翌日、桶狭間古戦場跡など見学。

アトラクションでは、知立山車文楽が演じられました。



地区本部代表の方々による記念・吟剣詩舞。

準備にはいつも地元の諸先生方のご苦勞に心から感謝している次第であります。本当に有難う御座いました。

足した。

三日前に発声してみると何とか行けそうな気分になりホッとした次第である。当日の信越地区は、中山・倉崎・宮原・飯島・小林の諸先生方に一緒にさせていただき六名参加した。

初めての総会出席で緊張したが議事も予定通りに進み本当によかったと思う。何もお手伝い出来ない私ではあるが、本年も頑張っていきたいものである。祝賀会は、文楽のからくり人形を目の当たりに見せて頂き、無形文化財の価値に改めて感動した。宴も和やかに終了して満足した。

漢詩 記念投稿 片倉清風（清彰） 信越

【ヴォックス音楽吟詠会 第一回（平成二十二年度）】

總會並創立三十周年祝賀會

成員初議決 總會爽清要 祝宴輝傳統 人形兼古謡

梅花方魏郁 吟舞裕京調 慶事三句賜 賀繁榮幸邀（蕭韻）

成員初めて議を決む 總會清要にして爽かなり

祝宴傳統に輝く 人形と古謡と

梅花方に魏郁 吟舞京調裕かなり

慶事三句の賜 繁榮を賀めて幸を邀えん

平成二十二年 三月 五日

雑記・ヴォックス音楽吟詠会第一回総会に出席のお呼びが掛かり、かねて損ねていた声が元どりに治ってくれる様心に念じつつ毎日を過ごして来た。

マイソングを作りましょう その2 (前号から続く) 中部地区 佐藤聖山

手始めに、歌のテーマを「荒城の月」として前奏曲を作ることになります。

詩は次のようにし、曲名は「嵐吹く」としました。

♪ 春の風に 舞い散る花 松が枝にまどう 月影悲し

おー 嵐吹く おおー吹き荒れて

ひとひらの花を 手にうけて 花の香り過ぐ 風悲し

おー嵐吹く夜に おおー吹き荒れる風

風にまかせて散る花を 追いかける手をすりぬけて

花はゆく移る世の姿 松に歌う嵐 千代の光暮れて

泣き暮れる 夜半のおおー 月

◇曲の前半は、シブラル様式でスケールはヨナ抜き短音階(詩吟用の「ンダクター

でうから弾いた音階)後半は、シブラル様式ですがメリスマ的な歌唱法を織り交せて

サビの部分とします。スケールは、ヨナ抜き短音階に変わり音を使用して変化を付け、

後半に向けて高い音域を使用して行きます。曲の最後に、詩吟のゆりを思わせる様な

メリスマティックな歌唱法を前面に出して曲を締めくくります。

◇構成としては、長くても短くてもよく使用されます。前奏曲に続いて歌われる「荒

城の月」もヨナ抜き短音階で出来ていますし、吟詠を挿入する場合もスケールは変わ

りありませんので、前奏曲を工夫して変化をつけると良いでしょう。

「シブラル様式・一音節に一つの音符を使用する。」
「メリスマ様式・一音節に複数の音符を使用する。一詩吟でよく使用する。」



意見、感想をお待ちしています。

〔用語しらべ〕『小学館 新撰国語辞典』ほか。事務局

音節・音声の単位で、音節主音シラブルともいう。それ自身の中に切れ目が感じられない音の連続。

◇一つの母音を音節主音とし、その母音単独で、或はその母音の前後に一個又は複数個の子音を伴って構成する音声(群)で、音声の「聞え」の一種のまとまり。

◇基本構成：左記のように母音を中心としたまとまり。

1. 母音

2. 子音 + 母音

3. 母音 + 子音

4. 子音 + 母音 + 子音

日本語では、普通1及び2の構成をもつ。

①一つの母音……アイウエオ

②一つの子音(力行く行の子音部分)と一つの母音。

◇1・2の様に母音で終る音節を開音節、3・4のような

子音で終るものを閉音節という。

◇日本語では、閉音節は「ん」で終る音節だけである(鼻母音で発音される「ん」を除く)。あとは開音節である。

◇「ん?」「ん万円」などのように「ん」が語頭にある場合には、「ん」だけで一つの音節を構成していて、この場合鼻母音に発音されない限り、子音である限り「音節主音的」な子音とみなされる。

平成 22 年度（第 1 回）

定時総会



会長・岩淵公胤先生の開会挨拶



会議風景

平成二十二年三月五日（金）平成二十二年度「定時総会」が名古屋市・クラウンホテルにおいて開催され、今後の活動方針や要望など数多くの議事が審議されました。

本総会は、正会員による全員総会として創立以来始めて開催されるヴォックス音楽吟詠会の画期的総会となりました。総会は、開会式に岡田岳龍副会長の開会宣言、黙祷、国歌斉唱、会詩合吟があり、岩淵公胤会長の挨拶のあと平成二十一年度事業報告、同収支報告・二十年度吟詠決勝大会収支及び内容報告の後監査報告と続き、二十一年度事業計画案・予算案など真剣な審議が行なわれ、最後に創立三十周年記念表彰があつて特別功労賞・永年功労賞また感謝状の授与が行なわれました。会議出席者は、六十八名。

総会終了後ヴォックス音楽吟詠会創立三十周年記念祝賀会が催され、翌日、記念の観光は熱田神宮―有松しほり―桶狭間古戦場―大樹寺と史跡を中心とするコースを巡りました。（この項・3ページ）

右、総会出席のあと三十周年記念祝賀会の記念全員写真。



古の熱田まち ロマンの亀と八彊鳥居

○印

草薙典龍

◇◇蓬萊ロマン◇◇

『地下に棲む巨大亀の謎解き』

弥生時代（約 2 千年前）、名古屋から細長く南方へ延びた半島があった。この半島は「象の鼻」と呼ぶに相応しい地形である。その先端が、今の熱田区民が生活している地域で、いつしか「熱田台地・年魚市潟（あゆきがた）」の地名となった。海に囲まれた年魚市潟の岬―熱田台地は古来人々が崇めた聖域の森であった。その森が今の熱田神宮である。熱田は蓬萊の島と言われ、地下には巨大な亀が棲むという。いわゆる「蓬萊亀ロマン」が伝えられている。

その由来を示す中国の伝承がある。それは、中国の東方の彼方に不老不死の蓬萊の島があり、その地下には巨大な亀が棲んでい

頭が下を向き、尻尾が上 両手を開いている亀の姿を見ることが出来る。○印の位置に鳥居が設けられ、全部で 8 基ある。〔2005 年 12 月 11 日 中日新聞より転写図〕

古の民は、ここ熱田の神域が中国の東方に位置しており、聖域の島であったところから、蓬萊の島はここ熱田台地・年魚市潟との認識を深め、森の神社は蓬萊の宮として人々の信仰が定着した。中国の美女・楊貴妃の熱田物語も生まれ得たのである。熱田神宮は、江戸時代までは八つの鳥居が立てられており、これを「八彊（はちきょう）の鳥居」という。不思議なことに蓬萊太古の言い伝えに従って描いた亀と、八彊の鳥居の位置がほぼ一致している。私は、この史実を知った時以来、蓬萊亀の謎解きの虜となった。八つの鳥居は、聖域を表しており『亀はその聖域を暗示している』と思うのである。

すでに、世俗にまみれ地形も変わって見分けにくいのが、亀の字の付く寺社は、今も熱田区に多く点在していて、亀井山寺・亀岳山寺・亀頭山寺・亀足山寺、（他に熱田グルリンマップ掲載）等その痕跡を残している。私自身、熱田区に在住しており、この巨大な亀のロマンに浸りながら、今も古代の象の鼻・年魚市潟岬・蓬萊の島という歴史の重みに感慨深いものを覚える。



図の左側、象の鼻に見える熱田台地

八十路の出帆 嶺本賀救道

播磨地区副本部長

勤続萬般 盡精研

事務局長

星移物換 獨流漣

弧雲過去 夕陽天

猶氣青春 夢達船

好音余生 杳杳仙

増位霊峰 金龍遷

何時耳順 沈毅賢

贏得神明 願佳縁

◇副題 第二の人生

定年退職後二十年を経て、昨年九月五日、八十歳を迎えた。業務に我を忘れて励んだが、こんなに長生きするとは思ってもよらないことでした。八十の星霜は、楽しかった事、苦しかった事、悲しかった事、嬉しかった事、辛かった事。思い起こせば涙が出てきた。空に一片の雲が過ぎ去って夕陽の空に消えた。それでも今猶青春の気持ちややりたい事が小さな船の倉に一杯詰っている。美しい響きの便りを期待する自分の余生に……。仙人とははっきり見えないが、後方に聳える増井山や広峰の霊峰に棲む金龍よ。何時の日にか耳順の歳に沈着剛毅に勝れ、あまりある神の御精神をささえに尊い縁を願っている。



古典文学 枕草子

素晴らしい日本文学を、ご紹介し、親しみ楽しんで頂きたいと願って連載します。参考文献

改稿 枕草子通解 転載 昭和三十年十一月発行

第四段 ことことなるもの

ことことなるもの 法師のことば。男女のことば。げすの言葉には、必ず文字あまりしたり。

口語訳 ことばの調子の違うもの、それは僧侶のことばだ。又男のことばと女のことば。下賤な者のことばには、きつと余計な語が多い。

語釈 ことことなるもの一言異なるもの、言葉の違って異様なをいう。げすー下衆の字音で、賤しい者。○文字あまりしたりー余計な事を多く添えること。

第五段 思はむ子を（前段）

思はむ子を法師になしたらむこそは、いと心苦しけれ。さるはいと頼もしき業を、ただ木の端などのやうに思ひたらむこそ、い

いとほしけれ。さうじ物の悪しきを食ひ、寝ぬるをも、若きは

物もゆかしからむ。女などのある所をも、などか忌みたるやうに、

さし覗かずもあらむ。それをも安からずいふ。まして験者などの

方はいと苦しげなり。御嶽、熊野、かからぬ山なくありくほどに

、恐ろしき目も見、しるしある聞え出できぬれば、ここかしこに呼ばれ、時めくにつけて、安げもなし。いたく煩ふ人にかかりて、物のけ調ずるもいと苦しければ、こうじてうちねぶれば、「ねぶりなどのみして」と咎むるもいと所せく、いかに思はむと。これは昔の事なり。今やうは安げなり。

口語訳

愛する子を法師にしたのは、実にかわいそうである。それは甚だ頼もしい有難い事なのであるが、(世間では、坊さんといえは)、ただ木の切れ端かなんぞのように思っているのが、まことに気の毒なのである。精進物の粗末なのを食い、寝るにしてもさ、(いくら法師でも)若い人は何彼につけて好奇心も湧こう。女などのいる所をも、何の忌み嫌ったように覗かないことがあるう。(覗き見もしようさ)。そんなことをも(世間では)容易ならぬ事のように、かれこれと非難する。まして修験道の方の法師は実につらそうである。吉野の金峰山や、熊野や、その他足跡の至らぬ山もなく、(霊山を巡拝するうちには)恐ろしい目にも遭い、(難行苦行の結果、漸く)法力があるという評判が立ってくると、あちこちに祈祷に呼ばれ、はやるにつれて落ちついた気分も生活もない。重態の病人に關つて、その取付物を調伏するのも骨が折れるので、疲れきって居睡りすると、「あの坊さんは祈祷もろくにしないで、居睡りばかりして」と、傍らの者が非難するのも苛酷で、当人の験者は何と申うであろうと、気の毒である。ただしこれは昔のことである。当世風は、(法師の作法も乱れて)気楽そうである。

語釈

思はむ子—かわいく思う子(「む」は推量の助動詞・仮定的に婉曲にいう)。法師—仏法を修め世の軌範となる僧。心苦し—木の毒。さるは—法師になしたことを指す。頼もしき業を—頼もしきことなのに。木の端—木の切れ端。思ひたらむ—世人の思っているのが。さうじ物—精進物。寝ぬるをも—寝るにしても。若きは—若き法師は。ゆかしからむ—見たいものを見たいように好奇心も働くであろうという意。「ゆかし」は、心が自然に引かれ行く意。女などの云々—仏者は婦人に対しての禁止戒律が殊に多い。などか—「か」は反語。かからぬ—関り合う。到らぬ。さし覗かずも云々—僧とはいいいながら同じ人間なら、覗くも当然との意。「さし」は接頭語。験者—修験者(山伏)。御嶽—金の御嶽の略、大和の「金峰山」のこと。吉野山の高峰で蔵王権現の奥の院。熊野—紀伊・東牟婁郡の熊野権現。新宮・本宮・那智を熊野三所、或は三山とも称し、その嶮は葛城・吉野に次ぐので、修験道の霊地とした。かからぬ山なく—到らぬ山なく。「かかる」は関りあう。しるしある聞え—効験のある評判。時めく—時に遇って盛んになる。物のけ—鬼魅の類を「もの」といった。「け」は気で、怪の字は、借字。死霊・生霊のたたることをいい、形を現す妖鬼などという。調ずる—調伏する。①衆生の諸の悪行を制伏すること。②神仙に祈って怨敵魔障の者を降伏させること。ここでは、後者の意。こうじて—「こうじ」はサ変動詞。「困じ」のウ音便。疲れて、草臥れて。所せく—立場が無く窮屈。「せく」は、狭くである。今ようは—当世風では。いかに思はむと—この下、「あはれにいとほし」などの語を補う。今やうは—当世風では。

お知らせ

平成 23 年度

ヴォックス音楽吟詠全国コンクール

第 32 回決勝大会

会場---(担当地区---中部地区本部)

日時---平成 23 年 10 月 (予定)

◇ヴォックス音楽吟詠会◇

第 2 回定時総会

日時---平成 23 年 3 月 11 日 (金)

午前 12 時 30 分~

会場---道頓堀ホテル

〒542-0071 大阪府中央区道頓堀 2-3-25

TEL 06-6213-3444 FAX 6213-3449

平成 23 年度 吟詠コンクール 課題吟

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
和歌・俳句	後夜仏法僧鳥を聞く	夜墨水を下る	壇ノ浦を過ぐ	爾 霊	感 有	貧 交	江 南	岩崎谷の洞に題す	暁に発す(残月)	不識庵機山を撃つ図に題す	楓 橋	静 夜
※自作を除く※				山	り	行	春	題す			泊	思
	空 海	服部南郭	村上仏山	乃木希典	山崎闇斎	杜 甫	杜 牧	杉 聴爾	月田蒙斎	頼 山陽	張 維	李 白

ヴォックス音楽吟詠会

ホームページアドレスご案内

<http://www.vox-ginei.co>

活動記録・組織・記事をご覧頂くことが出来ます。

正会員入会

平成二十二年 度

山口辰洲 楠洲流聖楠会副会長
原山華道 尚道流吟道会副会長
宮下龍舟 操舟流吟道会副会長
北山賀春則 賀堂流但馬吟詠会
香椎里水 吟道天水流吟詠会専務理事

西中国 播磨 信越 信越 信越

正会員退会 平成二十二年 度

友松明光 鶯風流明光会会長 東京
山本神禎 神風流神享会会長 東京
安藤吼州 吼山流吼州会 中部
大池斎方 北辰神桜流桜斎会詩舞講師 中部
河田誠龍 誠舟流吟道館岐阜県本部相談役 中部
古海瑛翔 吟詠剣詩舞神奈備会副会長 中部
真野斎錦 北辰神桜流講師 中部
平光薫陽 現代詩吟伯陽流伯陽吟頌会副会長 中部
長崎操舟 操舟流吟道会宗家 中部
尾崎煌水 吟道天水流吟詠会副会長 西中国
豊田凜風 豊田流剣詩舞道日本明倫会家元 播磨

〔豊田先生は、ご逝去〕